

## 第30号

令和3（2021）年8月20日発行

会員募集中

年会費 3,000円

10月以降入会 1,500円

## 2年ぶりに定期総会、開催される 石井会長、中山副会長、雪吉副会長が退任

新たに楠副会長、大河原副会長を選任、会長は当面空席、  
会長代行に楠副会長

去る4月29日（金）、令和3年度定期総会が岡山県立図書館で開催された。昨年度は新型コロナウイルス感染症蔓延により総会が中止。2年ぶりの総会に48名が出席した。司会を濱手英之氏と山崎佳奈子氏（いずれも運営委員）が務めた。

石井会長が議長となり、令和2年度の事業報告、同決算報告と監査報告、令和3年度事業計画案、同予算案、及び役員改選案が提案、審議された。このうち、令和2年度決算報告については、内容



に一部不備があったため、運営委員会に諮った上で別途報告されることになった。その他の議案についてはすべて承認された。

役員人事では、石井会長、中山副会長、雪吉副会長が退任され、新たに楠副会長、大河原副会長を選任した。総会では白井洋輔氏の新会長就任が承認されたが、総会后、やむを得ない事情により辞退されたため、当面、楠副会長が会長代行として会の運営にあたることになった（6月30日の運営委員会で決定）。また、新たに監事として永谷格夫氏と那須丈平氏が、運営委員として新たに内田武宏氏、吉鷹一郎氏が選任されたが、吉鷹氏が辞退されたため、6月30日の運営委員会で金谷孝則氏が選任された。



会長代行 楠 敏明氏



副会長 大河原 喬氏



那須丈平氏



内田武宏氏



金谷孝則氏



総会后、就実短期大学教授の小谷彰吾氏により「今こそ健全な学びの輪を地域に広げる時」～先人の教え『論語』に学ぶよりよい生き方～と題する記念講演が行われた。

なお、岡山歴研の10周年記念誌が総会の前日に納品され、総会当日に一部配布を行った。記念誌の詳細については、下記を参照されたい。

## 就任の御挨拶

会長代行 楠 敏明

いきなり副会長、そして会長代行に押された楠です。戸惑っています。できるだけ早くふさわしい人に会長になってもらいたいと願っています。これまで約10年会報の編集を担当してきたので、これからは一会員になって、興味深い研究発表を聴いたり、探訪会に参加したいと思っていた矢先です。

元々が技術屋で、未だに細々と会社を経営しており、特許を取った商品を製造し、販売しています。そして、先々月も3つ目の特許を申請しました。

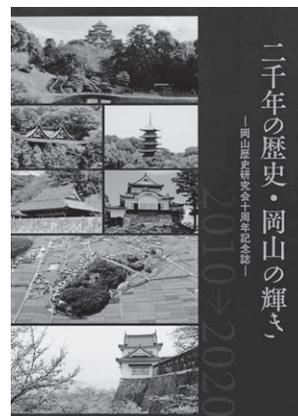
今から10年程前、当時、中国短大の学長をされていた松畑先生が中心となって吉備学会を立ち上げました。何を研究されるのかと興味深く思っていました。何年かして仲間に入れてもらいました。結果的には、現在コロナ禍もあってか、竜頭蛇尾の状態が続いています。

岡山歴史研究会もどのようなやり方がいいのか、いいアイデアを持ち合わせていません。これまでやってきたことを10周年記念誌に纏めました。これまで通りのやり方でいいのかも含めて話し合っていきたいと思います。新しい会長が決まるまで代行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

## 10周年記念誌が発刊されました！

岡山歴史研究会は、平成22年（2010）10月に発足し、令和2年（2020）に発足10周年を迎えました。これを記念して、記念誌の編集を行ってきましたが、本年4月30日付けで『二千年の歴史・岡山の輝き ー岡山歴史研究会十周年記念誌ー』として発刊いたしました。記念誌は、A4版、表紙カラー、本文モノクロで、総ページ数218ページ（広告を含む）、頒価2000円です。

記念誌には、10年間の岡山歴研の活動・研究内容（全国大会の開催、邪馬台国論、岡山ゆかりの人物顕彰、岡山の文化・美術、サロン会、歴史探訪会など）の報告や、会員の皆様からの寄稿、総合年表などの資料が掲載され、充実した内容になっています。御一読いただければ幸いです。（お申し込みは事務局長または事務局次長まで）



山田事務局長 電話：090-1033-3327 メールアドレス：rekiken.okayama@gmail.com

伊達事務局次長 電話：090-8600-6950 メールアドレス：rsv69221@nifty.com

**総会記念講演**

# 「今こそ健全な学びの輪を地域に広げる時」 ～先人の教え『論語』に学ぶ、よりよい生き方～

就実短期大学教授（幼児教育学科） 小谷 彰吾氏

総会終了後、就実短期大学小谷彰吾教授による記念講演会が開催された。小谷氏は昭和35年（1960）生まれ、興譲館高校、文教大学を卒業後、岡山大学大学院教育学研究科を修了、公立小学校教諭を経て、興譲館高校教諭、副校長、校長、副理事長を歴任され、平成30年（2018）に就実短大教授に就任された。「一般社団法人 Team 友だち100人できるかな」の代表理事としても活躍されている。

小谷氏は「論語」に学ぶことや道德教育の重要性を認識され、興譲館の伝承の校訓「白鹿洞書院揭示」の教えに現代の息吹を吹き込み、教育現場で実践してこられた。このような努力が実を結び、「よりよい習慣は奇跡を起こす」結果となり、在任中に同校野球部の監督として、初めて選抜高校野球大会出場を果たされた。

小谷氏は今回の講演のために、『興譲館の歴史と阪谷朗盧 そして、先祖がえりをめざした平成の大改革 ～次世代に先人の思いをつなぐために～』という冊子を作成し、パワーポイントを利用しながら講演された。その要旨は以下のとおりである。

## 興譲館と阪谷朗盧、そして渋沢栄一

「興譲館」の初代館長は阪谷朗盧<sup>さかたにろうろ</sup>である。朗盧は文政5年（1822）、現在の岡山県井原市美星町九名生まれで、朗盧は雅号である。当時、井原は御三卿の一橋家の所領であった。幼い朗盧は、幕府の下級官吏になった父に従って大和、大坂に行き、大坂では大塩平八郎に学んだ。さらに江戸に出て昌田精溪に学び、父の死により一旦故郷に帰った後に再び江戸へ行き、古賀侗庵の門に入った。侗庵の死後に故郷に帰り、嘉永4年（1851）に家塾「桜溪村塾」を開いた。

嘉永6年に、一橋家の「江原御役所」代官であった友山勝次と陣屋役人の角田米三郎が朗盧を招き、郷校としての「一橋藩江原教諭所」が発足した。朗盧は米沢興譲館に遠慮して興譲館と命名しなかったが、翌年、侗庵の子の古賀茶溪が長崎からの帰途立ち寄って「興譲館」と揮毫したことによりこの名称になった。

朗盧は、山田方谷やその門下三島中洲をはじめ、緒方洪庵、久坂玄機（久坂玄瑞の兄）、讃岐の日柳燕石など多数の人々との交流があった。中でも、日本資本主義の父と言われる渋沢栄一との縁は深い。渋沢が農民兵募集の役目にあたることになり、備中3万3千石という一番石高の大きな領地である井原に出向いて兵を募集したが、応募者はなかった。そのような時に朗盧に出会い、たちまち意気投合した。そのことにより、塾に通っている若者たちを始め、200人もの応募者が集まった。慶喜は大変喜



んで、渋沢に褒美を下したという。朗盧も慶喜に拝謁し、塾に対して扶持までもらった。後に渋沢の次女琴子と朗盧の四男義朗が結婚し、両家は姻戚関係になった。

渋沢はこの時以外に2回興譲館を訪れており、3度目に訪れた際には、「興譲館」の文字を揮毫している。校門にかかる「興譲館」の文字はその時のものであり、野球部のユニフォームのロゴは渋沢の書がもとになっている。

明治元年（1868）に朗盧は広島藩に仕官し、2年後に藩侯に従って上京したが廃藩置県により辞職、下級官吏の職を転々とした。官職を退いた後、自宅に「春涯学舎」を開塾したが病により生涯を閉じた。興譲館は朗盧の甥の坂田警軒が運営していたが、経営が厳しくなり生徒数も減少。同志社教授であった山下春堂（中興の祖）が館長になり改革に着手し、生徒数が数百人に達したときもあったが、その後も経営が厳しい時期が続いた。

## 興譲館への思いと改革

自分は中学で野球部に属し、高校野球名門校への進学を希望していたが、父から「野球のために進学する高校などない。高校へは勉強するために行くものだ」と諭され、「野球名門校ではお前は通用しない。行くなら普通科にしなさい」と言われた。さらに、「地域に愛される人間になれ。そのために、地元興譲館高校に行け」とも。

当時の興譲館は紛れもない学力底辺校の私立であり、「興譲館では甲子園にも大学にも行くことができない」と思いを伝えると、父に「そう考える人間はどこへ行っても伸びることはない。自分が引っ張っていくという人間でなければ大成しない」と言われ、半分納得しながら、泣く泣く興譲館に行くことになった。

大学卒業後、公立小学校教員としての生活を送っていたが、37歳のときに一大決心をして、少子化とともに今後学校の存続自体も危ぶまれる母校興譲館に勤務することになった。「野球部を軸として学校を変える。母校を活性化し、その教育の歴史をつなぐ」、これが天命だと受け取ったのである。学校改革のゴールは十年後と決めた。

平成10年（1998）に赴任してみると、研修体制もなく、すべてが前年踏襲、各科（商業、工業、電気、普通科）はばらばらで壁があり、協働などとはほど遠い状況であった。

そこでまず、周辺の中学校にアンケート調査を行い、その結果をもとに「十年の改革プランづくり」を1か月かけて作成し、短期、中期、長期ごとに達成目標を明確にした。改革の柱は、①カリキュラム改革、②組織改革、③地域連携・地域融合、である。

### ①カリキュラム改革

興譲館の伝承の校訓「白鹿洞書院揭示」の理解と実践のための全方的カリキュラムづくりを肝として、人格の完成を目指すものである。興譲館の精神文化である「儒の精神」、「徳の学問」、「和魂洋才」を追求する。いわば「先祖帰り」である。「白鹿洞書院揭示」は、南宋時代に朱子が「白鹿洞書院」を再建するにあたり掲げた教育目標であり、孔孟思想に由来する人倫道徳である。この教えを生徒が理解し、日常への実践化を発展させるためには、儒学の原点である「論語」の学習が効果的と考えた。学習の基本的な躰という観点も入れ、全員が正座できるよう座布団を購入し、正座して発声する「型」を身につけさせた。これを学んだ最初の生徒たちが、平成20年に第80回選抜高校野球大会に初出場

したのである。2年後には、必修科目として「人間学」を設定した。

「論語」よりも先に取り組んだのは、「命を学ぶ」総合的な学習「創造」である。私たちは一人一人が奇跡的に生まれてきた。生かされていることへの感謝の念を持ち、生死を見つめることが「徳の学問」につながる。「命の学習」の総仕上げとして、施設体験（保育園、幼稚園、障害者施設、高齢者施設など）を行い、学習の質が高いものになっていった。学校教育の意義を追求し、感動の共有を目指す学習こそが、総合的な学習「創造」なのだ。

## ②組織改革

時代も情報機器も生徒の実態も急速に変化しているのに、旧態依然とした前年踏襲が継続しやすいのもまた学校である。変革は一人では不可能であり、理解者を増やし、チーム化していくことが必要である。外部から来た一若造であったため、トップダウンはできず、ボトムアップしかなかった。

まず4科の壁を取り除くために、各科の若手教員に「学校がなくなる」危機と「方向性を示す「夢」を語ることにより、少しずつ賛同者が増えていった。しかし、変革を望まない人から見れば「クーデター」であり、反発が出る。そこで、「教育課程の検討」の仕組みづくりに着目した。意見を吸い上げ、整理し、優先順位を決め、短期・中期・長期の計画を一覧表にして提示した。同時に「教育課程検討委員会」（後の「学校改革委員会」）を作った。これで初めてミドルアップ&ダウンのマネジメントが可能になった。

最大の難関は、科の壁で分断されていた4つの科を統合することであるが、これがなかなか理解されなかった。組織のステージアップのためには、上位層2割、中間層6割、下位層2割のうち中間層6割をいかに上位層へ意識転換を図れるかが勝負なのであり、2:6:2が3:5:2になったとき、組織はステージアップできる。最上位層、すなわち牽引しようとする人間が増えることで組織は変わる。

## ③地域連携・地域融合

高校野球は、技能や勝敗ではなく「野球を通じた人格形成」を求める教育である。見えない心を届けるものが「型」であり、学校設定科目「論語」の学年合同の時間を活用して「型」の習得に取り組んだ。掃除や挨拶だけでなく、下足や自転車の並べ方、集団行動での立ち姿や歩き姿にもこだわった。

教育寮や野球部の生徒を中心に、より良い習慣が周囲に広がり、生徒たちに変化が見え始めると、校内の空気は一気に変わっていった。そして、老婦人が田の作業で困っているのを見て手伝った、電車の中で目の不自由な方を見て改札口までサポートした、などの感謝の声が多数届くようになった。

平成19年（2007）、野球は十年でやめると決めていた最後の年に、秋期中国大会で野球部は実力以上のものを発揮した。準決勝で下関商業に敗れたものの、閉会式で高野連から校名名指しで称賛してもらった。翌年1月、第80回選抜高校野球大会出場が決まり、学校の歴史の中で初の快挙となった。

そして奇跡は連鎖し、大先輩方が、念願であった新教育寮、野球部の新球場、学食のついた新校舎などのとてつもないプレゼントをしてくださった。礼節は人をつなぐ、感謝力は奇跡を起こす。徳育は未来を拓くのである。先人の思いのこもった郷校「興譲館」は、常にその道德教育の先端を走り、品格の明かりをともし、地域の未来を明るく豊かなものにしていく使命を担っているのである。

（文責：井上知明）

# 第1回山城探訪会 北房・中津井・佐井田(齊田)城址 探訪記

会員 濱手 英之

令和2年11月18日、早朝より快晴に恵まれた気持ち良い日に、岡山歴史研究会の第1回となる山城探訪会が開催された。年初より流行っているコロナウイルスの国内検査陽性者は12万人を超えており、3密を避けての開催となった。

岡山駅と倉敷駅を発ったバスは20名程を乗せている。現地集合の私は早めに着いて静かな街を散策した。歴史を学びたいと思う時は現地を訪れてみることは大変重要で大切なことだと思う。

今回登る佐井田城は鎌倉時代頃まで遡るらしい。この地の最初の地頭？山田重英が赴任した時、少なくとも見張り台以上のものはあったのではないだろうか。備中聖人山田方谷は27代目とも言われる。

中津井は、中世、備前や美作、出雲から備中松山方面に侵入しようと思っただけで攻略しておきたい要所であったと思う。16世紀、植木氏の居城だった時代には大きな戦いがここで5度は起こったらしい。戦国時代の勢力図を大きく変えたといわれる戦い、宇喜多勢が三村氏を追い返した俗にいう明善寺（妙善寺、明禅寺）崩れの翌日には、宇喜多氏の大軍（9000?）がこの城を攻撃して落とされたといわれる。その2年後、毛利方はもう一度この城を奪い返す。この時には600名以上が亡くなったとも伝わる。何とも激しい戦いだったのだろう。籠城する植木氏の援軍要請に宇喜多氏は反応して、ものすごい人数が助けに集結したらしい。攻める方としては兵糧攻めを選択せざるを得ない要塞だったのであろうが、大戦といえる。

願成寺前の駐車場に車を停めて歩いていくと一の鳥居の場所に出る。早速、薪にて沸かしたおもてなしの甘酒をいただいた。中津井せんだんの会の皆様のご接待だ。そして登山道も落ち葉一つないほどに掃除、手入れをしてくださっていた。保存会の方達に感謝しかない。

急な断崖を九十九折に上って行く。これは要害だ。出丸まで登ると、下中津井や北房の町もよく見える。その奥には、5つの曲輪がたつらなる。稻荷神社に手を合わせて、記念撮影の後には、2重の大堀切や武者走りも通ってみた。また、山頂近くであるにも関わらず、大きな井戸には水がわき、イモリ？もいて、清水であることがわかる。

山を下ると、中津井陣屋跡にて昼食をいただく。和室でいただいたお弁当は手作り品も多く、大変美味であった。

次は、古墳を見て回る。大谷・定古墳群は珍しいピラミッド構造の方墳で列石をとまなう。豊かな副葬品も確認されていて、7世紀のこの地域の繁栄と独自性を感じさせる。定北古墳も方墳であり、こちらもゆっくり奥の方まで見て回った。



大谷古墳

塩川の湧水はその近くであり 岡山県の代表的な湧水だ。山際の小さな洞窟からかなりの水量が流れ出ている。その後、地元の方のお茶を頂いた。大変美味で素晴らしいご接待であった。お茶を点ててくださったのは花森敏明さんである。多くのからくり水車がみえる「備中中津井カラクリまつり」ではたくさんの水車を手作りされるそう。

中世の山城に興味のある私にとって大変有意義な一日であった。今回の第1回の探訪会は大成功だったと思う。何よりも資料やバスの手配等準備をしてくださった役員の方、また登山道を整備して食事やお茶の接待までご用意いただいた地元の皆様に感謝申し上げます。



山頂で記念写真（佐井田城）

## 「塩飽諸島・本島ウオーキング」

会員 工藤 博

去る3月19日、瀬戸内海に浮かぶ塩飽諸島の中心地、丸亀市本島で総勢33名の歴研ウオーキングを開催した。本島は倉敷市児島観光港から本島港まで旅客船で30分、面積6.7km<sup>2</sup>、周囲16.4km、人口4百数十人、かつては海運・廻船業で知られた塩飽の水軍・宮大工・船大工等の活躍した離島である。

好天に恵まれたこの日、本島港に塩飽本島ガイドの三宅邦夫氏が出迎えて下さる。先ず、幕末勝海舟のもと太平洋を横断した咸臨丸を操船した水夫（かこ）を称える顕彰碑に案内してもらおう。全乗組員96名中実に35名が岡山県に近い本島の出身という水夫の名が刻まれているのを見ると、歴史上の咸臨丸が身近に思えてくる。

本島港から10分ほど歩き、木鳥（こからす）神社内に讃岐地方に多くみられる歌舞伎舞台で、咸臨丸渡米から2年後に建てられた現存する丸亀市指定文化財の千歳座に向かう。塩飽大工の建てた間口約10mの堂々とした舞台だ。舞台の仕掛けには痛みかけている箇所もあるが、現在の工法では元通りへの修復は不可能という塩飽大工の技がある。

本島の船方衆は豊臣秀吉から領地を認められた人名（にんみょう）の島、その人名から入れ札で選ばれ政治を執り行った年寄り、宮本家の江戸時代初期に建てた高さ約3mの巨大な国指定史跡墓石の前で、参加者全員揃って記念撮影。

寒さのやわらいだ心地よい空気が漂う海辺の道、ウオークを進め東光寺にお参りする。東光寺は普段は無人だが当日は歴研のために特別に開けて頂くことが出来、国指定重要文化財薬師如来座像を拝観する。像は12世紀半ば、平氏政権台頭の頃に定朝の流れをくむ仏師が制作した木造金塗りの限りなく国宝に近い仏像である。黄金色に輝く仏像に心奪われる。

昼12時頃になり、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている笠島地区で手持ちの弁当を開く。江戸時代後期、江戸参府中のシーボルトも訪れ絶賛したという笠島地区は、現在江戸期13棟、明治期20棟の瓦屋根建物が立ち並んでいる静かで落ち着いた雰囲気醸し出している地区である。町通りが転訛しマッチョ通りというユーモラスな名の付く通り付近には、江戸時代に手作業で4.2mの延石を成形した地形石、洗練された持ち送りの彫刻、京風の親子千本格子、起り（むくり）という屋根の形状、TV番組「なんでも鑑定団」で1千万円の値が付いた伊藤若冲の日本画が掲げてある築100年の吉田邸等、見どころが多い。

笠島地区を抜けて、木々に囲まれた山中に階段を上がりひっそりとした無住寺専称寺にお参りする。専称寺は13世紀初頭、岡山ゆかりの浄土宗開祖法然が讃岐に流される時に専修念仏道場の庵が建てられた場所。ここから浄土宗が全国に広まったのだといういにしえに思いをはせる。

ウオーキングのハイライトは江戸時代18世紀末、塩飽諸島の政務を取扱う政庁として建築された国指定史跡塩飽勤番所。勤番所には長屋門、表座敷、執務の間、詰所、白洲、牢等々がある。幾度か改築、修理されているが昭和47年までは丸亀市役所本島支所として使用されていたという。畳敷きの館内に入り信長、秀吉、家康、秀忠、綱吉の朱印状、名奉行として知られる大岡越前守の漁場裁許書、咸臨丸水夫の遺書など歴史を物語る資料を見せてもらう。驚いた。あのそうそうたる歴史上の人物も本島へ関わっている。資料からは香川県と岡山県をまたぐ海域で人名、水夫等が活躍した証が読み取られ、本島が瀬戸内海海運にいかん重要な要所であったかを学んだ。本島は豊かな歴史ある島だ。

本島港からゴールまでガイド三宅氏の分かりやすい名調子の案内で約5時間、5kmのウオーキング。みんなが良い一日を過ごし楽しんだ。ケガもなく無事で帰路の旅客船に乗れたのは何よりだった。



## 再開 「総社市秦の郷」 ウォーキングの案内

歴研事業委員会

去る6月4日に計画していた「総社市秦の郷」ウォーキングが、雨のため中止となりました。

つきましては、改めて以下の通り開催いたします。多数のお申し込みをお待ちしています。

### 〔行き先 総社市秦地区〕

1. 開催日 令和3年10月1日（金）  
雨天の場合は10月8日（金）へ順延
2. 参加費 無料  
（弁当と飲物は各自持参 マスク着用）
3. 参加募集人数 約30名（先着順）
4. 主な探訪コース  
およそ6km（徒歩部分は5km）のウォーキング  
・サントピア岡山総社・金子石塔塚古墳・秦大ぐる古墳・一丁ぐる古墳群・茶臼嶽古墳・秦原廃寺・奉天神社・姫社神社 他  
（一部変更することもあります）
5. 案内 ・佐藤光範歴研顧問  
・板野忠司秦歴史遺産保存協議会会長他

6. 集合  
サントピア岡山総社フロント受付 9時  
電話 0866-95-8811 （解散は16時頃）  
\*ご注意；去る6月4日とは集合地を変更しています。  
アクセス：JRまたは自家用車  
（自家用車の方は上記へ直行、JR利用の方は8時40分総社駅1階正面東口に集合し保存会役員が車で送迎。〔伯備線8時26分着、桃太郎線8時17分着列車あり〕）
7. 申込及び連絡先 工藤 博  
参加ご希望の方は氏名・住所・電話・集合地サントピア岡山総社への交通手段（自家用車又はJRのいずれか）をご連絡ください。  
・電話：090-4654-8964  
・Eメール：sw225442@tw.drive-net.jp  
・はがき：〒710-0803 倉敷市中島 2007-8  
・FAX：086-466-0192

## 訃報

運営委員として全国大会や特別事業の司会などを担当していただいた稲見圭紅氏が、令和3年2月に逝去

されました。御冥福をお祈り申し上げます。

## 編集後記

新型コロナウイルス感染症の蔓延が続く中、2年ぶりに総会が開催され、石井会長、中山副会長、雪吉副会長ほか何人かの方が役員を退任され、楠副会長（会長代行）以下、新しい運営体制が発足しました。長年お世話になった方々に心から感謝申し上げます。

会報の編集長も、今号から私が担当することになりました。皆様の御協力を得て何とか職責を果たしていきたいと思っています。

会報の発行は、サロン会、歴史探訪会などとともに歴研の行う重要な事業の一つであり、会員向けの機関紙として、また、対外的な広報紙として、ホームページとともに大きな役割を果たしてきました。岡山歴史研究会の機関紙ですので、会の動向をはじめ、サロン会等の内容の紹介や、探訪会の報告、その他岡山の歴史や文化に関連した調査・研究報告などの記事が今後

とも中心になるのは当然ですが、それだけではなく、「岡場で幅広く歴史を研究する会」の機関紙という視点も採り入れて、ウイングを拡げていくことができればいいなと思っています。会員の皆様からの積極的な投稿をお待ちしています。（井上知明）

発行 岡山歴史研究会  
会長代行 楠 敏明  
編集長 井上知明  
事務局 〒701-0204 岡山市南区大福415-14  
山田 良三方  
電話 090-1033-3327（携帯電話）  
FAX 086-806-2525  
メール rekiken.okayama@gmail.com  
ホームページ <http://b.okareki.net/>